建築人

2026
10

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter “Kenchiku-Jin” No.748











「MOAIの独言」
日々心に引っかかった光景やモノをスマホで撮影、加工した作品
私が惹かれるのは
蓄積された時間が感じられるモノや光景
自然の造形物
今その時しかない光
固定概念にとらわれず自由に感じてください

Photographer MOAI
岩手県盛岡市出身
1985年大阪芸術大学卒
同年広告企画制作会社にカメラマンとして入社
あらゆる業種業態のクライアントの撮影に携わる
1996年フリーランスとなりPhoto Office MOAI設立
大阪を拠点に広告写真を中心に活動中

建築人

2026.10 No.748
Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter “Kenchiku-Jin”

表紙の建築 「奈良の家」2024年

第69回 大阪建築コンクール 渡辺節賞 受賞作品
設計：金井田雄介
施工：桝谷建築生活造形室
撮影：金井田雄介

敷地内には地域産の生駒石など、宅地開発期の造形が断片として残り、苔むしながら土地の記憶として定着していた。これらを時間をまとった環境資源として再編。
中間領域を形成する庇と縁側が、建築と庭の関係を緩やかに接続し周辺環境や時間の蓄積を受け止める。

2 MOAIの独言

4 Gallery 建築作品紹介
「淀屋橋ステーションワン」
設計：竹中工務店
施工：竹中工務店
「Osaka Life Science NEXUS」
設計：大林組
施工：大林組
「高野川の別荘 新築工事」
設計：越前良太デザイン研究所
施工：ACE
「WEAVING TERRAIN」
設計：マニエラ建築設計事務所
施工：西友建設

9 近代産業都市の建築文化
都市の再産業化での「中庸」/ 北尾靖雅

10 Topics

11 動静レポート

12 Information

14 記憶の建築
「弘前市立博物館」1976年
弘前城址の戦後復興を記憶に刻んで / 松隈 洋

建築人 No.748 2026年10月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部
部門長：松下典央
委員長：武藤優哉
編集人：昇 勇 石貫方子 岩岸克浩
荻窪伸彦 笠松哲司 河野 学
大松俊祐 中北 力 春岡須磨子
三谷勝章 村上栄司 山本恭史
事務局：辻本和人 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和8年10月1日発行
発行人：会長／上田茂久
発行所：公益社団法人大阪府建築士会
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F
tel. 06-6947-1961

淀屋橋ステーションワン

設計：竹中工務店
施工：竹中工務店









淀屋橋ステーションワンは、街の人々が利用できる様々な都市機能を立体的に配置した高層複合型オフィスビルである。外観を囲う石貼りのスレンダーな柱梁フレームは、御堂筋の玄関口において表裏の無い上質な景観を形成し、構造体として高層ビルを支えると共に、外周のどこからでも出入りができる街に開かれた立ち方を実現している。建物各所の内装材は、近代建築が立ち並ぶ淀屋橋の街の記憶を想起させるタイルや左官等の素材を選択し、歴史や文化という文脈においても街とのつながりを感じ、御堂筋の新たな風景となることを期待している。

所 在 地：大阪市
用　　途：事務所、店舗、
　　自動車車庫
竣　　工：2025.05
構造規模：鉄骨造
　　地下3階、地上31階
敷地面積：3,940.82㎡
建築面積：2,686.83㎡
延床面積：73,102.00㎡
写　　真：ナカサアンドパートナーズ 中道 淳
　　竹中工務店

Osaka Life Science NEXUS

設計：大林組
施工：大林組













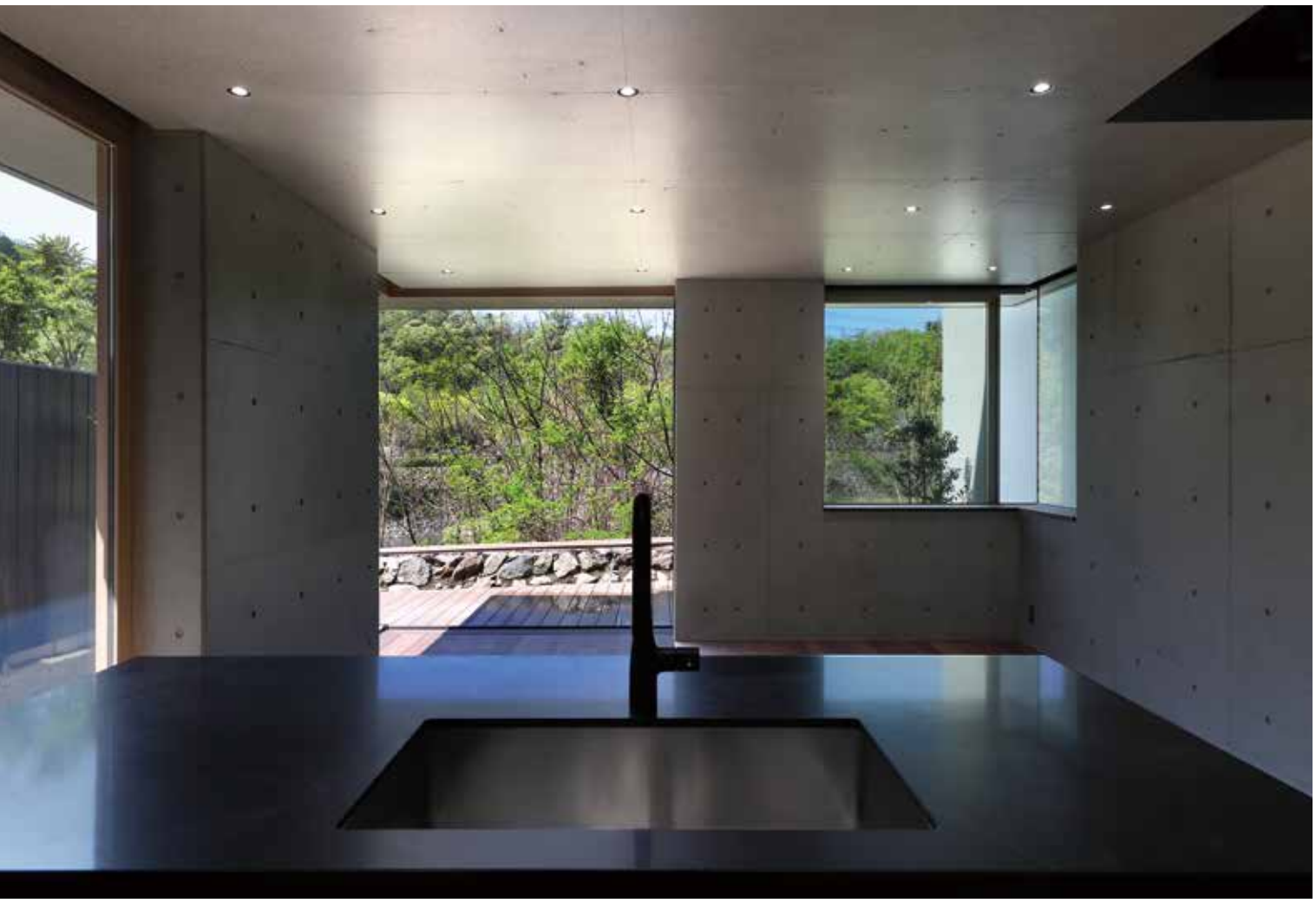


大阪・中之島のテナントビルに計画された、ライフサイエンス分野に特化したイノベーション施設である。2フロアにわたり、123室の大小様々なプライベートオフィスとコワーキングスペース、多彩な共用空間を整備し、国内外の企業や研究者が集う交流拠点の創出を目指した。施設運営を担うCICは世界各国に拠点を展開しており、各々で「その都市らしさ」を表現している。今回の「大阪」においては、「MARBLING」というデザインコンセプトを立案した。関西各地の地域性から着想を得た色彩や素材、形態の要素を混ぜ合わせることで、多様な歴史・文化・価値観が共存する「大阪らしさ」を表現した。「空間を構成する要素の混ざり合い」と「利用者同士の交流による価値の混ざり合い」を重ね合わせ、新たな価値創造とイノベーションを生み出すワークプレイスを目指している。

所 在 地：大阪市
用　　途：事務所
竣　　工：2026.04
構造規模：鉄骨造
　　2階
延床面積：3,109.06㎡
写　　真：STUDIO FOCUS

高野川の別荘 新築工事

設計：越前良太デザイン研究所
施工：ACE







京都市左京区の高野川沿いに位置する約100㎡の敷地は、特別修景地区に指定されており、建築面積や緑化率、外観意匠に厳しい制限が課されていた。この条件下で、最大限の床面積を確保しつつ、居住性や空間の広がり、そして周辺環境との繋がりをいかに両立させるかが設計の主題となった。
そこで本計画では、構造そのものを空間構成の要素とし、1階は壁式RC造、2階床は木造組梁、3階屋根は木と鉄骨を組み合わせた。鉄筋コンクリート、鉄、木が互いを補完し合い、構造と空間が一体となった架構を目指した。大開口や張り出し窓、そして入側縁は、高野川や松ヶ崎丘陵とのつながりを生み出し、都市と自然を緩やかにつなぐ暮らしを描き出している。

所在地：京都市左京区
用　途：一戸建ての住宅
竣　工：2026.04
構造規模：混構造
　　地上3階
敷地面積：100.33㎡
建築面積：38.90㎡
延床面積：110.79㎡
写　真：松尾勝司

WEAVING TERRAIN

設計：マニエラ建築設計事務所
施工：西友建設







敷地は北西へ向かって広がり、道路レベルの地盤、南側の低い地盤、北側の高い地盤という三段階の高低差をもつ。地下1階は地盤面下のRC造、1階は北側のおよそ半分を地盤面下に埋めた高基礎の木造とし、敷地の高低差を建築の断面へそのまま取り込んでいる。あわせて宅地造成等規制法の対象とならない造成計画とすることで、構造とコストの合理化を図った。
外観は、三本の水平な帯が浮遊するようなファサードとし、既存石積みの重厚さと対比させ、軽やかさと力強さを併せもつ佇まいを目指し、プランの中心にはダイナミックな吹抜があり、2階からは、夙川の林並木までが一望できる。
地形を読み、風景を取り込み、土地に潜んでいた性質をひとつずつ建築へと置き換えることで、ここにしか存在し得ない住まいとなった。

所在地：兵庫県西宮市
用　途：専用住宅
竣　工：2026.08
構造規模：地下1階RC造
　　地上2階木造
敷地面積：251.66㎡
建築面積：97.40㎡
延床面積：247.48㎡
写　真：松村芳治

2026年「建築人賞」作品募集



審査委員長　古谷 誠章

早稲田大学 栄誉フェロー・名誉教授
NASCA代表

1955年　東京都生まれ
1978年　早稲田大学理工学部建築学科卒業
1980年　早稲田大学大学院博士前期課程修了
1986年　文化庁芸術家在外研修員として、スイスの建築家マリオ・ボッタ事務所（～1987年）
1994年　（有）ナスカ（NASCA）設立
1994年　早稲田大学理工学部助教授（～1997年）
1997年　早稲田大学理工学部教授（現・創造理工学部教授）（～2025年）
2017年　第55代 日本建築学会会長（～2019年）
2020年　早稲田大学芸術学校校長（～2024年）
2021年　東京建築士会会長（～2025年）
2024年～ 日本建築士会連合会会長

「建築人Gallery」掲載作品は『建築人賞』の候補作品です。

公益社団法人大阪府建築士会は、会員サービスの一環として会報誌「建築人」を毎月発行しています。本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布し、発行部数は約3,000部です。「建築人」の誌上で「Gallery」の建築作品紹介コーナーを設け、現代建築の様相を反映できるものとして好評を博しており、毎年1月号～12月号のGalleryに掲載された作品が「建築人賞」の審査対象になります。

「建築人賞」は2009年に創設され、個人の審査委員長により選考し、表彰式は翌年5月の本会の定時総会で執り行われます。「建築人賞」「同賞新人賞」「同賞奨励賞」「同賞佳作」があり、「建築人賞」「同賞新人賞」の設計者には記念品が授与され、各賞の建築主、設計者、施工者にはそれぞれ賞状が贈られます。ぜひ本誌に皆様の建築作品の掲載をお願いいたします。



建築人賞



建築人賞新人賞



佐久間 靖（グラスアーティスト）

1971 年 大阪府高槻市生まれ
1996 年 神戸学院大学 法学部 卒業
1997 年 ㈱ロクレールプロダクショングラスアーティスト 三浦啓子氏に師事
2016 年 ㈱ Jiku Art Creation 作品制作に従事

「建築人」Gallery 掲載要項

■ 掲載概要

1頁カラー、写真4点程度、説明文300字程度

■ 掲載事項

・建築主、設計者、施工者、協力会社
・所在地、用途、竣工年、構造規模、敷地面積、建築面積、延床面積

■ 掲載料

110,000円（本体100,000円＋消費税）
※1　初回割引　88,000円（本体80,000円＋消費税）
（過去10年間で設計者及び施工者がGalleryに掲載されていない場合が対象です）
※2　若手初回割引　55,000円（本体50,000円＋消費税）
（※1を満たす方のうち、40歳以下かつ建築設計事務所を主宰されている方が対象です）

■ 問合せ・申込み

公益社団法人大阪府建築士会事務局　担当：母倉
e-mail：info@aba-osakafu.or.jp　TEL：06-6947-1961　FAX：06-6943-7103

近代産業都市の建築文化

都市の再産業化での「中庸」

京都女子大学家政学部教授
北尾靖雅（一級建築士、博士〔工学〕）

懐徳堂

大阪の今橋に、大阪大学の源流の一つとされる「懐徳堂」がありました。享保9年（1724年）中井甃庵らが三宅石庵を学主に迎え、大坂商人の協力を得て創設された学問所です。明治2年廃止されるまで145年にわたり人材を育成したことで知られます。江戸期の大坂を堂島の米相場の存在から、市場経済や資本主義の牙城のように認識することが一般的です。懐徳堂は江戸の昌平坂学問所に対応する上方の朱子学（儒学）の拠点で、時代は違いますが、適塾と並ぶ大坂の智の拠点でした。後に洗心洞を設立し陽明学を構築した大塩平八郎も門人でした。懐徳堂の学問的業績として、経典の誤りを正す「中庸錯簡説」の研究が知られます。

中庸

「中庸錯簡説」での中庸は孔子の「四書」の内、「中庸」から引用していることは間違いないでしょう。懐徳堂の解釈では、「中」は、過不足がなく、極端に偏らなく、その時、その場で最も適切な判断や行動ができることを意味し、「庸」は常に変わらない、いつでも、誰でも日常的に実践できる普遍性を意味する、と解されます。状況を俯瞰して常に最適なバランスを選び続ける実践的な「徳」だとされます。私は「中庸」が、極端に対立する中で、対立とは異なる道を示す概念として、洋の東西を問わず見いだせるとみています。

例えば、欧州における宗教改革の時代、カソリックとプロテスタントがせめぎ合った対立に対し、理性と寛容を重んじた立場を示したのが、オランダのロッテルダムに生まれたエラスムスです。寛容はオランダ社会に芽生えたトーレランスの精神といえます。エラスムスは教会の腐敗を批判しつつ、ルターのような急進的議論を避け、教皇の権威を認めつつ平和的な内部改革を追求したのです。この姿勢は、黄金の調和とよばれます。エラスムスの穏健な姿勢は、中庸に通じる思想として理解できます。

「中庸」という、儒学用語を使って、近代社会が抱えた問題の解決をスエーデンに求めた社会活動家が阪神間にいました。それが、賀川豊彦です。キリスト教徒の賀川は阪神地域の細民街の人々のために無料の診療所や社会福祉施設を設立し、困窮家庭のために託児所や私塾を開き、教育の機会を提供しました。さらに、消費購買組合（後の生活協同組合）を結成し、住民が自主的に生活を守る仕組みを造り出しました。そして、一連の活動から、受賞には至らなかったのですが、戦後はノーベル平和賞の対象者の一人とされました。

中庸を行くスヰーデン

近現代の巨大な対立は、言うまでもなく、資本主義と共産主義/社会主義です。1920年代から30年代にかけて、イデオロギーの対立の狭間に置かれた国の一つにスエーデンがあります。この国には、ラーゴム（Lagom）の考え方があり、ラーゴムとは、「適度」という意味があります。社会的には、極端な貧困は発生させないが、極端な富裕も要求しないという、均衡を重視する考え方と理解されています。中庸に近接する概念として賀川が取り入れたと理解できます。

スエーデンは、19世紀には欧州の最貧国の一つで、工業化の過程で独自の社会モデルを築きました。スエーデンは非同盟中立の立場から二度の世界大戦に与せず、近代社会を構築したことに注目されます。当時、国内では「国民の家」という構想が共有され、中庸の精神が具現化されたのが、工業と居住環境の調和と言えます。

1930年代に同国を訪れた賀川豊彦は、ストックホルムの工場を見て、米国ワシントンのホワイトハウスより美しく、大規模な工場に接して、美しく室内装飾の整った職工住宅や、共働きの家庭を支える近代的な託児所が整備された集合住宅地に関心を示しています（賀川豊彦全集 第24巻）。賀川は、スエーデンの社会を我が国に紹介するため、米国人のチャイルズが著した「中庸を行くスヰーデン（Sweden: The Middle Way）」を翻訳出版しました（Fig）。スエーデンから、資本主義的な効率性の追求と人間としての尊厳や連帯を重んじることを融合する社会の近代化を見いだそうとしたのです。賀川は経済成長と社会的包摂という質の異なる社会的価値の均衡の獲得を目指したと、言えるでしょう。

スエーデンの工業化時代

現代の再産業化を考える上でスエーデンの中庸に意義を見いだせます。それは、第一に、経済発展を目的そのものとするのではなく、生活の豊かさを実感するための手段だからです。資本市場は経済活動上、重要ですが、資本市場は誤ることがあります。そこで市場を修正する道が選ばれ、さらに、産業構造の転換に対応した労働政策が同時にありました。今後の再産業化の時代には、衰退産業からの労働力の移転が生じると考えられています。つまり、都市計画における再産業化は、工場を国内に戻す物理的な作業に留まりません。産業発展と良好な居住環境の構築を、極端な市場原理主義や非効率な保護主義に向かわず、再産業化を模索することと考えられるでしょう。

前稿で、再産業化に対応する都市計画の概念を示しました。工業化を極端に求めず、住宅に偏ることなく都市計画を誘導することが、再産業化時代には必要とみています。都市の再産業化では、経済効率と生活環境という二つの価値を対立させず、相互に調和する都市構造を構築する営みを目指すことだと考えます。この理念を端的に表すのが、「中庸」だとみています。



Fig;賀川豊彦・嶋田啓一郎訳『中庸を行くスヰーデン』（筆者蔵）

Topics

大阪ステーションシティ見学会 ～駅を歩いて、都市を読む～

日程：令和8年8月31日（月）
会場：大阪ステーションシティ
参加者：20名



小畠伸一（大阪市北地域サークル）

8月31日、大阪府建築士会大阪市北地域の企画として、大阪ステーションシティ見学会を開催した。20名の参加者とともに、普段は見ることのできない場所も含め、駅を「建築」だけでなく、その裏側を支える仕組みまで歩いて見学した。

今回の目玉は、ノースゲートビルディングの大屋根を支える免震装置である。開業直前に東日本大震災、さらに大阪北部地震を経験した大屋根が、実際にどのように地震に備えているのか。以前の見学では、東日本大震災時の変位を記録した「けがき」の跡を見ることができたが、今回は確認できなかった。それでも、巨大な屋根そのものを「動く」ことによって守るという発想と、その装置のスケールには、改めて圧倒された。

続いて、非常用発電機設備では、特別に設備を作動させていただいた。起動すると、ターボンが回り始め、まるで飛行機のエンジンのような音が響く。大屋根の免震装置が「揺れに備える」仕組みだとすれば、非常用発電機は「機能を止めない」ための仕組みである。普段、駅を利用する私たちが目にするのは、明るく快適な空間だが、その背後には、災害時にも都市機能を維持するための巨大な設備が存在している。華やかな駅の姿は、こうした見えない仕組みによって支えられている。

JPタワーアトリウムの郵便局保存棟では、建築士ならではの視点が表れた。改修やヘリテージに造詣の深い参加者から最も多くの質問が寄せられ、建物を「残す」ことの意味への関心の高さを感じた。新しいものをつくるだけではなく、過去の建築をどう次代につなぐか。異なる時代の建築を共存させる姿も、大阪ステーションシティの魅力である。

最後にイノゲート大阪オフィスフロアから眺めたのは、グラングリーン大阪を含む大阪駅周辺の広がりである。新しい都市が目の前に広がり、「大大阪駅」とも呼びたくなるスケールを視覚的に体感した。

私たちが見ていたのは、完成した建築ではなく、地震に耐え、設備によって機能を維持し、歴史を引き継ぎながら、さらに都市へと広がっていく「生きた建築」だった。

最後になりますが、見学にご協力いただいたJR西日本ステーションシティ株式会社の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



Talk Relay わたしの推し
「モルック！モルック！モルック！」



常山哲男（大阪市北地域サークル）

今年の夏、合宿と称して建築仲間と先輩の別荘に泊まりこんだ夜、皆が食後に呑みながら建築談議に花を咲かせている中で、私の意識は掌の中、スマホに送られてくるモルック仲間からのSNSライブ配信にあった。ちょうどその時ヘルシンキで開催されていた世界大会に、仲間が出場していたのだ。

さて皆さんはモルックをご存じだろうか？フィンランド発祥の競技で、1～12の番号の付いた木の棒を、3～10mほど離れた所から木の棒を投げて倒し、点数を競うゲームである。とても簡単なルールでそれほど体力を必要としないので、誰でも手軽に始められる。簡単だが真剣にやると奥が深い所が面白い。棒を思い通りに倒すには相応の技術がいるし、常に計算を行いながらゲームを組み立てる戦術、相手チームとの駆引きやチーム内での作戦など様々な要因が絡む。それに少なからず偶然性が潜んでいるのだから堪らない。また一緒にプレイした人とはチーム内外を問わず仲良くなれるのも魅力の一つだ。

そんなモルックであるが、国際的には毎年世界大会が開かれる。今夏行われた大会では、地元フィンランドに次いで日本からは50チームが参戦した。そんな中に私がいつも一緒にプレイしている仲間が出場していたのだから応援しないわけにはいかない。おまけに彼らのユニフォームの背中には、我が事務所の名前がプリントされているのだ。

ところで私がモルックにハマったきっかけは、2022年の日本大会を、泉州地域で当時まちづくりの活動をしていたメンバー達と、泉佐野市に誘致したこと。地域で体験会等を行って盛り上げた機運が、成功裏に大会が終わった後も個人的に続いているわけだ。

近頃の私は月に数回、大阪市内や近郊で開催される愛好家たちが催す大会と、年に数回、全国規模の公式大会に出場している。できれば仲間との毎週の練習会にも参加したいのだが、なかなか時間が取れないのが悩みの種。だから試合では練習不足のぶっつけ本番で、思うようには上達しない。だけど試合の時の思うようにいかなさを含めて、仲間たちと過ごす時間は他に変えられないリラックスタイムとなっている。

実は非公認ながら、大阪府建築士会のヘリテージマネージャー協議会にはモルック部が存在する。社会貢献部門ヘリテージ委員会のメンバーから繋がるはずなので、ご興味ある方は是非お声掛けください。

最後に、AIにモルックと建築の共通点を問うたところ、・空間の計算・プロセス・マテリアル・目的と価値という項目が出た。

このように、建築にも通じる？というモルックに、皆さんもレッツチャレンジ！



動静レポート

会長動静

8/30　和泉市制施行 70 周年記念式典
9/2　日本建築士会連合会業務保険委員会
9/7　大阪都市景観建築賞（大阪まちなみ賞）審査委員会
9/9　部分断熱・耐震改修WG
9/11　正副会長会議、運営会議
9/16　理事会
9/18　建築紛争セミナー 11

9 月度　理事会報告

日時　9 月 16 日（水）16：00 ～ 18：00
場所　本会東会議室及び WEB
出席　理事 39/46 名　監事 3/3 名
　　顧問・相談役 10 名

【審議・承認事項】
(1) 会計報告、入退会報告

（円）	7・8 月計	累計
収入	12,219,123	61,815,029
支出	16,944,410	44,078,929
差引	-4,725,287	17,736,100

（人）	入会	退会等	7・8 月
正 会 員	7	4	2,000
準 会 員	0	0	30
特別準会員	1	0	21
賛助会員㈱	1	2	167
計	9	6	2,218

上記の当期経常増減明細と入退会を承認しました。

(2) 既存住宅状況調査の耐震診断オプション料金と耐震診断料金
既存住宅状況調査と耐震診断を同時実施する場合の料金体系の改定の説明があり、承認しました。

(3) 天王寺区との包括連携協定
歴史的建造物の保存及び活用並びに地域の歴史文化継承を目的とした、天王寺区との包括連携協定の説明があり、承認しました。

(4) 広報・情報発信事業
ホームページ改修に伴う費用拠出、近畿各建築士会への建築人 Gallery 作品募集及び WEB 入会申込フォーム導入について説明があり、承認しました。

(5) 学生会員規則案
18 歳以上の大学生・専門学校生等を対象とした、学生会員制度の創設及び規則案等の説明があり、承認しました。

【報告事項等】
(6) 事業執行報告
定款第 21 条第 4 項に基づき、会長、副会長、常任理事（部門長）、専務理事より各事業の執行状況の報告がありました。

(7) 文化庁補助金交付決定通知
本年度の文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）について、交付決定の報告がありました。

(8) SNS 運用及び公式アカウント開設
SNS「X」運用ガイドライン作成状況及び公式 Instagram・X アカウント開設について報告があり、会員へのフォロー協力を呼びかけました。

(9) ウクライナとの覚書締結と対応方針
ウクライナのチェルカシー州等との覚書締結と今後の対応方針について報告がありました。

(10) その他
国土交通省による一級建築士の懲戒処分について、本会会員 1 名が業務停止 14 日の処分を受けたことが報告され、本人あてに注意喚起文書を送付することとしました。また、他建築士会の取組事例の紹介、大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会サポーター募集の周知依頼及び 12 月 16 日の理事会終了後に開催予定の忘年会について報告がありました。

理事会での賛助会員 PR

本会では理事会において賛助会員企業による企業・製品紹介の時間を設けております。9 月は植田基工株式会社より「植田基工の工法について」というテーマでお話いただきました。



令和 8 年 一級建築士 学科の試験 合格発表

令和 8 年一級建築士「学科の試験」の全国合格者が 9 月 2 日に発表されました。併せて、公益財団法人建築技術教育普及センターより大阪府分を入手しましたのでお知らせします。
（全国）

実受験者数	29,094 人
合格者数	7,619 人
合格率	26.2%

（大阪）

実受験者数	2,816 人
合格者数	752 人
合格率	26.7%

設計製図試験は、10 月 11 日に「ホテル」の課題で実施されます。合格者の発表は 12 月 23 日（水）の予定です。

大阪急性期総合医療センターの災害訓練に参加

9 月 4 日に大阪急性期総合医療センターにおいて、「上町断層帯地震が発生、大阪市最大震度 7」という想定で、的確かつ迅速な判断のための被害状況報告システム(iCAS) による、写真付き建物被害情報の判定に対応した災害医療訓練が実施され、本会からは応急危険度判定士 4 人が参加しました。
本会は医療センターと、震度 6 弱以上の地震発生時に応急危険度判定を行う協定を平成 29 年に締結しています。



Information

建築士会からのお知らせ

既存住宅状況調査技術者講習

新規講習10/28
更新講習11/12、2/19
CPD新規5単位、更新2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみに認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。令和5年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。

▼新規講習（DVD）
日時　10/28（水）　9：30～17：00
会場　大阪府建築士会　東会議室
定員　30名（定員に達し次第締切）
受講料　WEB申込21,450円
　　郵送申込22,000円
▼更新講習（DVD）
日時　11/12（木）、2/19（金）
　　13：30～17：00
会場　大阪府建築士会　東会議室
定員　30名（定員に達し次第締切）
受講料　WEB申込17,000円
　　郵送申込17,600円
▼申込　日本建築士会連合会HPよりお申込みください。上記以外にオンライン講習も開催いたします。

既存木造住宅の耐震診断・改修講習会（一般診断法）

10/29、11/17、1/29、2/25
CPD各4単位

本講習会は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断・改修の補助を受けることができる技術者の養成を目的としています。2026年1月にテキストの改訂があり、一般診断法の必要耐力および保有する耐力の計算方法が変更されました。過去に受講された方におかれましても本講習を再度受講され、最新の技術を業務に活用されますようご案内いたします。

日時　10/29（木）、11/17（火）、1/29（金）、2/25（木）
　　10：00～15：50
会場　大阪府建築健保会館
定員　80名（定員に達し次第締切）
受講料　会員5,000円　一般9,000円
テキスト代　9,900円
　「2025年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」

令和8年度監理技術者講習

11/11、1/13、3/19　CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、実務に役立つ情報を提供いたします。

日時　11/11（水）、1/13（水）、3/19（金）
　　各8：55～17：00
会場　大阪府建築士会　東会議室
定員　各回30名（定員に達し次第締切）
受講料　WEB申込み9,500円
　　郵送申込み10,000円
申込　日本建築士会連合会HPより

令和8年度　建築士定期講習

1/27、2/10、3/24

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和5年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼日程・会場・定員
1/27（水）（一社）大阪府建築士事務所協会 会議室　20名
※2/10（水）大阪府建築健保会館　70名
3/24（水）大阪府建築健保会館　70名
上記すべてDVD講習です。
※の日程：大阪府建築士会が運営
※以外の日程：大阪府建築士事務所協会が運営
注）各回定員に達し次第、受付を終了します。
時間　9：15～17：00（各講習日共）
受講料　12,980円（消費税含。事前入金）
申込　建築技術教育普及センターHPより

大阪・鶴見緑地花博記念公園内カフェ＆レストラン「BOTANICAL HOUSE（ボタニカルハウス）」見学＆懇親会

10/31

大阪・鶴見緑地花博記念公園内にあるカフェ＆レストラン「BOTANICAL HOUSE」は、2×4集成材を使った軸組工法で建てられており、屋根構面を2×4トラスで構成することで、15m×20mの木質大空間を実現しています。見学会では、独自の木造建築技術により「BOTANICAL HOUSE」を建てられた、当会賛助会員の三井ホーム株式会社より、建物について解説いただき、その後は懇親会を行います。

日時　10/31（土）　15：30～18：00
集合　カフェ＆レストラン「BOTANICAL HOUSE」
協力　三井ホーム株式会社（賛助会員）
参加費　4,000円（懇親会費込み）
定員　15名（申込先着順）
申込締切　10/23（金）

令和8年度　はじめよう、文化財の活用

10/31、11/29、12/13

歴史的建造物という特別な空間で、伝統文化などを体験しながら、「ユニークベニュー」の魅力を知っていただく講座です。毎回異なる国登録有形文化財などを会場に、文化財所有者から保存・活用のお話を伺い、建物見学やまち歩き、ワークショップなどを行います。歴史的建造物やまちなみ、そして伝統文化を楽しみながら、「ユニークベニュー」の魅力に触れてみませんか。

第1回　10/31（土）
　「能の入り口に入ろう」
　国登録文化財 川中家住宅（東大阪市）
第2回　11/29（日）
　「文楽人形でほっと一息」
　市指定文化財 旧一津屋公会堂（摂津市）
第3回　12/13（日）
　「青龍庭を眺めながら楽しむ和菓子づくり」
　国史跡・国登録文化財 西山氏庭園・西山家住宅（豊中市）

Informationの詳細及び申込みは大阪府建築士会ホームページに掲載しています。
http://www.aba-osakafu.or.jp/ メール info@aba-osakafu.or.jp
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

R8年度
大阪府ヘリテージマネージャー・スキルアップ講習
11/3、12/6

スキルアップ講習とは、ヘリテージマネージャーを主に対象とし、さらなる研鑽によってそのスキルを向上させることを意図した講座です。今年度は2回の開催となります。
第1回「フォトグラメトリーの手法と実践」
　日時　11/3（火・祝）　13：00～17：00
　会場　譽田八幡宮
第2回「貝塚寺内町で学ぶ 悉皆調査の手法」
　日時　12/6（日）　10：00～15：35
　会場　貝塚寺内町観光案内所
募集定員　20名（先着順）
資料代　本会会員及び大阪府ヘリテージマネージャー協議会会員・今年度育成講座の受講生・補講生：2,500円
　会員外：3,500円

シャッター・スチールドアの基本
ショールーム・工場見学及び法隆寺見学
11/11　CPD2単位予定

今回は、東洋シヤッター㈱の協力のもと、防火設備に関する法令や防火防煙シャッターについて学びます。また、ショールームで実機展示による製品体験、工場見学を通じて、製品や製造工程への理解を深めていただきます。午後からは現存する世界最古級の木造建築群である世界遺産「法隆寺」をガイド付きで見学します。
日時　11/11（水）　9：30集合～16：00解散
集合場所　JR法隆寺駅南口
参加費　会員1,000円　一般2,000円

令和8年度「八百屋お七聞き比べ」
in 大阪府庁舎（正庁の間）
11/27、11/28

大阪が誇る伝統芸能である文楽と講談を、今年100周年を迎える大阪府庁舎の正庁の間で上演いたします。会場には、文楽の櫓や手摺、太夫・三味線弾き、そして講談師が使う高座も設置されます。このような唯一無二の空間を、ぜひ体験しませんか。
第1回　11/27（金）　18：30開演　20：30終演
第2回　11/28（土）　14：30開演　16：30終演
また、番外編といたしまして
源平合戦（素浄瑠璃×講談）も行いますので、こちらの方も是非ご参加くださいませ。
11/28（土）　11：00開演　12：30終演

第21回国際企画海外研修旅行
「ネパール・マレーシアの両国を巡る」
2/18～24　CPD申請予定

今回は大規模な洪水被害の発生したネパールのカトマンズ周辺とペトロナスツインタワー（シーザーペリー設計）で有名なマレーシアのクアラルンプールをメインに視察していきます。なお、被災現場には行きません。
日時　2/18（木）～24（水）（機内2泊含む）
　2/19～21までカトマンズ、その後マレーシア滞在
定員　20名
参加費　会員345,000円、一般365,000円
　※参加費に燃油サーチャージ、空港諸税等は含みません。詳細は申込用紙でご案内いたします。
申込締切　12/10（木）
企画　国際委員会

行政からのお知らせ

違反建築防止週間
10/15～10/21

国土交通省及び各特定行政庁においては、建築基準法令違反の建築物の是正及びその発生予防に努めており、その一環として、全国一斉に「違反建築防止週間」を定めて実施しております。
建築士や建設業の皆様は適切な設計・施工・工事監理を行うと共に、建築基準法に定められた確認申請、中間・完了検査等の諸手続きを徹底することにより、欠陥のない適法な建築物を建築することが求められています。
また、近年では、地震や風水害による被害が甚大化しております。このような状況において、違法な建築物の放置が大きな被害につながる場合があり、所有者、管理者には常時適法な状態に維持するように努めることが求められています。
このような観点から、大阪府では期間中に建築パトロールやパネル展などのPR活動を通じて、府民の皆様に対し周知に努めております。
詳しい活動内容は、下記のホームページをご確認ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/o130190/kenshi_anzen/anzen_kaigi/campain.html

【補助制度のお知らせ】
大阪府先導的バリアフリー設備実装化事業費補助制度

高齢者、障がい者等をはじめすべての人が都市施設を安全かつ容易に利用することができる環境整備を促進するため、不特定多数の方等が利用する便所内に先導的なバリアフリー設備（光警報装置・大人用介護ベッド）の設置を行う事業者を対象に、「大阪府先導的バリアフリー設備実装化事業費補助制度」を実施しています。募集期間は令和9年1月29日です。
■補助率：一律2/3
■上限額
　光警報装置設置事業：70万円
　大人用介護ベッド設置事業：32万円
■詳しくは以下のHPをご覧ください。
　https://www.pref.osaka.lg.jp/o130170/kenshi_kikaku/hotel_hojo/sendouhojo_top.html
■お問い合わせ
　大阪府都市整備部住宅建築局建築環境課
　TEL：06-6210-9717

大阪府建築士会　公式SNS
セミナー等の最新情報をお届けします。
ぜひフォローをお願いします。

Instagram	X	Facebook

記憶の建築

弘前城址の戦後復興を記憶に刻んで

弘前市立博物館　一九七六年

文・写真＝松隈 洋［神奈川大学建築学部教授］

あらためて建築の歴史的な意味と価値を正確に理解して伝えることの難しさを痛感させられる機会となった。二〇二六年七月末、青森県弘前市の弘前市民会館で、「風景になる建築〜前川國男、晩年の〈環境建築〉をめぐって」をテーマに、シリーズ四回目となるワークショップが催され、座学と見学会、座談会の講師を務めた。今回は、七〇歳代を迎えた晩年の前川が弘前公園に遺した弘前市立博物館と緑の相談所を取り上げた。先に竣工した弘前市庁舎や弘前市民会館に比べて、いずれも小規模な建築である。人目を惹くような際立った特徴もなく、公園の中にひっそりと建っている。時を重ね、周囲の緑と調和した現在の姿からは、この場所のたどって来た軌跡や設計プロセスを想像することは難しい。そこで、ここでは、弘前市立博物館の建設までの経緯と、弘前城址の歴史を振り返りながら、この建築の生み出した風景について考えてみたい。



東側からの外観全景



一階の吹抜けロビー

おりしも、青森市では、「青森空襲を記録する会」主催の「青森空襲展」が開催されており、立ち寄ることができた。青森市は、敗戦直前の一九四五年七月二八日の米軍機による空襲で市街地の約九〇％が焦土と化し、防空法の順守を強制された大勢の市民が亡くなった。当時の写真や遺品が展示されていたが、常設の史料館はなく、証言者もいなくなる中で、戦争の記憶を語り継ぐことの困難さにも気づかされた。

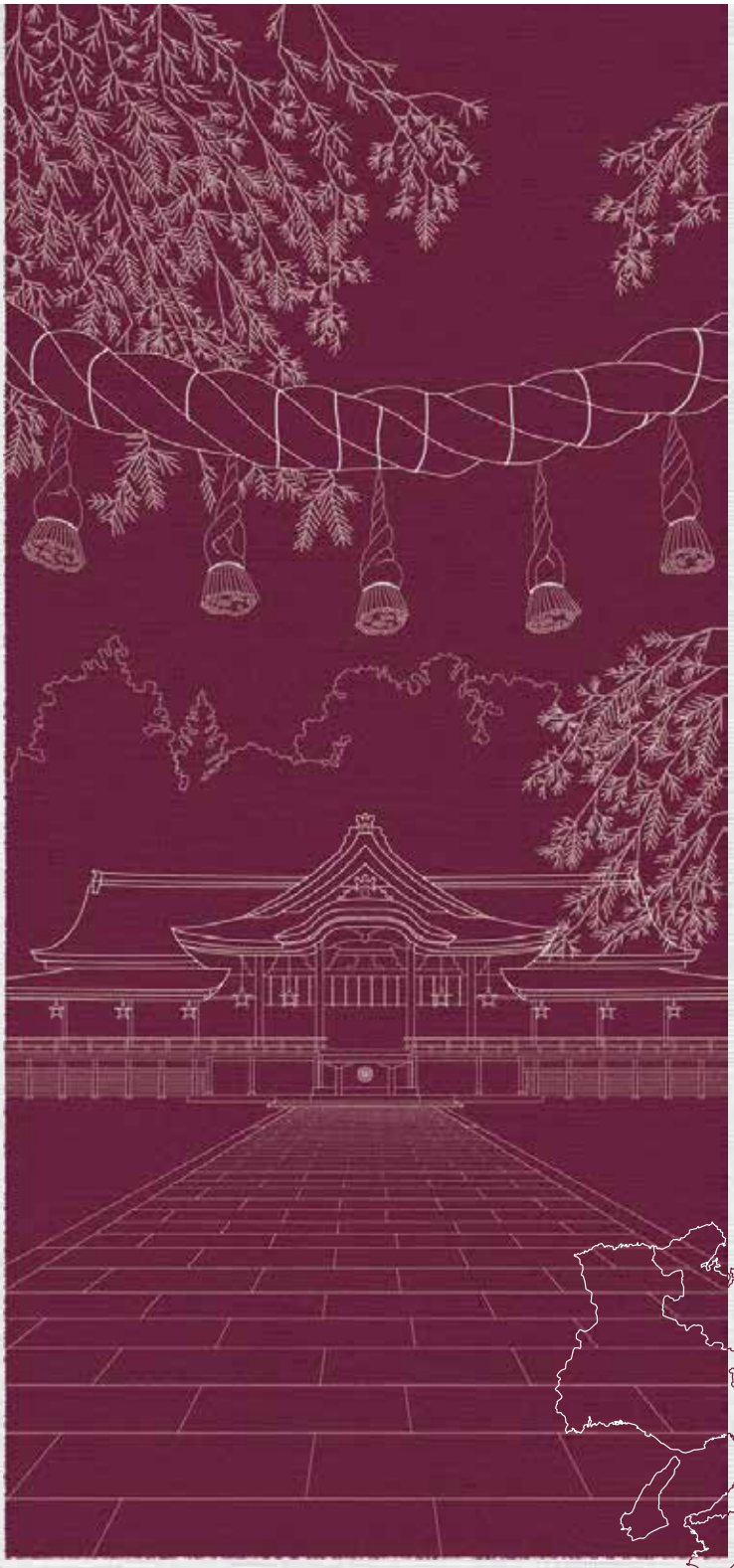
弘前市は、そのような甚大な被害を受けた青森市とは違って、幸いにも空襲を免れた。けれども、明治から軍都として陸軍第八師団を抱えていた。そのため、敗戦後、市内に残存する膨大な数の軍事施設や防空施設の転用や撤去が大きな課題となる。ちなみに、前川が市からの依頼で最初に手がけた弘前市庁舎は、第八師団長官舎の移設後の跡地に建てられた。また、弘前城の南東側をL字型に取り囲む三の丸広場一帯にも、兵器支廠と火薬庫が置かれていた。戦後、そこは市へ払い下げられて総合運動場となり、一九四八年に市営野球場、一九五〇年に地下弾薬庫の窪地を利用した市営相撲場が完成する。実は、後年、この相撲場を撤去して建設されたのが弘前市民会館だった。その間、弘前市は、軍都から観光都市への転換を図るため、城址一帯を国の史跡指定地とするための申請を続け、一九五六年に指定を受ける。また、文化財保護を進めるべく一九六〇年に文化財保護条例を定める。同年、弘前城址が都市公園法に基づく公園に指定される。このように、長い時間をかけて公園の整備が進められていったのである。

そして、弘前市立博物館の敷地は、今では想像できないが、計画時点では、すぐ横に無粋な野球場のスタンドが残存し、恵まれた場所ではなかった。そのことが、担当所員の仲邑孔一の次の文章から見えてくる。

「弘前城址には土坡が多い。土をたたいて築き上げた土坡である。(…)だからどことなく人にやさしい感じがする。(…)春、桜、人、人、人。眼のさめるような新緑も、ねぶたを過ぎればあっというまにひっそりと紅葉してしまう。こうした美しさも博物館の主要な展示品にしてしまいたいと、むずかしい条件の中で敷地の決定がなされた。あの古い野球場裏の杉の大橋の解体の古材が放り出されていた三角の敷地にこだわった弘前の人たちの卓見だ。」(『建築文化』一九八一年八月号)

この証言から読み取れるように、博物館の竣工後、野球場の跡地は、三年をかけて整備され、多くの樹木が植えられて市民広場となり、博物館がその緑に隠れるように、外部環境が周到に整えられていく。また、建物のボリュームも小さく抑えられ、正方形の単位空間が重なりながら雁行するプランによって、隣の市民会館の陰に寄り添う形でまとめられた。着目したいのは、市民広場に面する玄関側の寡黙な外観とは一転して、反対側の室内のロビーは、高さ約六mのL字型の大きなガラス窓によって、既存樹木を残して整備されたテラス越しに、弘前城二の丸未申櫓と遠く岩木山を望む開放的な空間が生み出されたことだ。博物館の建設には、周辺環境を公園へと転換させる意図が盛り込まれていたのである。けれども、現在の風景から、このような歴史的な経緯を理解することは難しい。今回、博物館に残る基本設計図などを閲覧したことで、市の担当者と仲村が何を大切にしようとしていたのかが、はじめて見えてきた。

そして、弘前城址と時間をかけた関わり合いは、前川にとって、大きな気づきを与えたものであり、それが、今回のワークショップのテーマに掲げた「環境建築」という言葉に込められていたのではないか、そう思えたのである。この言葉は、一九七〇年頃のスケッチ帳に残る前川直筆のメモ書きに、次のような順序で出てくる。まず、上段に「無償の建築→それ自身が目的の建築」とあり、下段に「合目的の建築→手段としての建築」が並置される。続いて、そのいずれもが矢印でひとつに結ばれて「エステティックとしての建築」となり、最後に「環境建築」と結ばれる。また、その下には、「建築における『真』とは本来『エステティック』としての問題意識のうちに論ぜられた」とある。このメモは何を意味するのか。前川は、「目的」や「手段」としての建築を超えた「真実」を宿す「エステティック＝美学的」な建築の最終的な目標は「環境建築」にある、との認識を持ち始めていたのではないか。そして、弘前市立博物館の、計画から現在に至るまでの弘前城址との関係性から浮かび上がってくるのは、そのような前川の建築思想の到達点ではないだろうか。そう考えると、戦災を免れた弘前の風土と歴史が、前川にもたらしたことの大きさが理解できる。これからも弘前から学んでいきたい。



第 43 回　近畿建築祭

奈良大会

2026 年 11 月 28 日（土）

10：00 － 17：00

やまとはくにのまほろば
はじまりの地「三輪」で
縁むすび

Miwa, Sakurai-shi, Nara

会場　三輪山会館
（奈良県桜井市三輪）

主催　近畿建築士会協議会
（公社）滋賀県建築士会　（一社）京都府建築士会　（公社）大阪府建築士会
（公社）兵庫県建築士会　（一社）奈良県建築士会　（一社）和歌山県建築士会

後援（予定）　国土交通省近畿地方整備局　（公社）日本建築士会連合会　滋賀県　京都府　兵庫県　大阪府　和歌山県　奈良県　橿原市　桜井市　天理市

申込書は大阪府建築士会HPより



連続する大開口が内外の境界を曖昧にし、庭との一体感をもたらす



雁行する建物、敷石、植栽がリズムを刻む